

for the one・あなたの一番になるために 彼を知りて 己を知れば 百戦殆うからず

## 今月の一言

### キーワード：プラス思考

一般企業でのビジネスの現場でも、日頃から継続的に準備が出来ている人は、どんな状況に直面しても慌てずに対応できる。だから結果を残せて評価も上がるのだと思う。逆に、どこかで手を抜いてしまう人はいずれボロが出て、その結果としてどんどん期待されなくなっていく。かといって、与えられた仕事だけをしつかりとこなせば良いというものではない。スポーツでも仕事でも、少しでも「誰かにやらされている」という意識を持ったら、もう一步先の高みには上がれないのだ。

以前、対談をしたプロ野球選手の野村克也さんは、「上に行ける選手は考える力、感じる力を持っている」と言っていた。確かにそうだと思う。技術にはいずれ限界がくるけれど、そこから先を埋めていく何かを見つければ、更なる上を目指すことはできる。つまり、目には見えない部分を自分でどれだけ見つけて、それを実践できるかなんだ。そのためにはやっぱり、「今の自分がやるべきことは何か」とか、「自分の目指すべき場所はどこか」をしっかりと見定めている必要がある。明確なビジョンを持っていないと日々の準備すら無駄になり兼ねないからで、そう考えると進むべき道筋をしっかりと作っていくことが、超一流へ進む第一歩だろう。

それともう一つ。試合中のプロゴルファーには、絶対に自分を卑下しないところがある。要は「おれがこれだけやってスコアが出ないのだから、他の選手はもっと出ないはず」という考えで戦っているのだ。これは、おれが常日頃から言っている究極のプラス思考なのだけれども、「ああ、この天候でのこのコンディションだったら、多分おれはここでいいだろう」と予測を立てちゃうのである。変な話、「今日は73だけど、おれがこれだけ苦労しているのだから、他の奴らはそれ以上のスコアを出せるはずかない」と勝手に考える。仮に70とか自分よりも良いスコアを出している選手がいても、「まぐれだろう」と考えるのだ。結局、常に上位で戦っている連中の余裕っていうのは、そういうことなのだ。相手が誰であろうと「自分の方が上手いのだ!」「負けるわけがない!」っていう強い闘争心を持っているからこそいかなるピンチに直面しても動じなくなる。どんな世界も「実力社会」である。その中で常に上を目指して上り続けるには、日々の継続力と必要な道筋に沿った行動力が必要だ。

そして、最後にモノをいうのは、どんな場面でも「自分が一番」と思うことができる図太い「プラス思考」なのだ。

著書：勝負論 著者：青木 功

## 超プロの技術集団を目指す!

2016年6月24日

さいのう とおる

**追伸：一年の半分が終わります。後半に向けて確認をして行動をしましょう。**